

令和 5 年 5 月 31 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03441

研究課題名（和文）アフリカ食文化研究の新展開：食料主権論のために

研究課題名（英文）New Development of African Food Culture Research: For the Food Sovereignty Studies

研究代表者

藤本 武 (Fujimoto, Takeshi)

富山大学・学術研究部人文科学系・教授

研究者番号：20351190

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究期間中に発生した新型コロナウイルス感染症の流行により現地調査の実施が困難となった。そこでそれまでの調査データをもとに論文発表や口頭発表を行うこととした。その際、当初のメンバーに限定せず、若手を中心に多くの研究者に参加してもらうこととした。アフリカの食文化に関する特集号を和文および英文の学術誌で刊行するとともに、学会でも2つのフォーラムを組織して研究発表を行った。また対面で行っていた研究会をオンライン形式に変更して研究発表などを引き続き活発に行った。この研究会を通じて形成されたネットワークをもとに多数の研究者の参加を得て共同研究がスタートし、アフリカ食文化研究の基盤を築くことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アフリカの地域研究において食が重要な位置を占めることは論をまたない。これまで食に関する研究は食料生産に関するものが中心的であったが、食には生産だけでなく消費にかかわる面も存在する。今後のアフリカの食について検討する際も、各地域・民族社会における食にかかわる文化（食文化）の理解は不可欠である。本研究ではアフリカの多様な食文化を歴史・地域・民族の文脈を通して人びとの在来知に着目しながら分析を行った。アフリカの食文化に関してはこれまで散発的に研究発表がなされてきたが、本研究では和文・英文の学術誌で特集号を組み、まとまった形で成果を公表した。このテーマの重要性を喚起することにも寄与するはずである。

研究成果の概要（英文）：The worldwide outbreak of novel coronavirus disease that occurred during the period of this study made it difficult to conduct field research. Therefore, we decided to analyze the data obtained from the previous research and to present published papers and oral presentations. In doing so, we decided not to limit the members to the original members, but to invite many researchers, mainly young researchers, to participate as research collaborators. We published a special issue on African food cultures in both Japanese and English journals, and organized two forums at academic conferences to present our research. In addition, we continued our workshops by changing face-to-face to online style, and conducted research presentations and discussions. Based on the network formed through the workshops, joint research project has started in FY2023 with the participation of many researchers, and we were able to build a foundation for further research development on African food cultures.

研究分野：地域研究

キーワード：アフリカ 食文化 食料主権 在来知 主食 グローバル化 都市化

1. 研究開始当初の背景

今世紀に入りアフリカは高い経済成長を遂げている。しかしこれは主に外国資本の投資によるもので、大多数の人々の暮らす農村にその恩恵は及んでおらず、食料生産は国際的に見て依然低い水準にある。むしろ天候不順による不作等によって、食料自給のセーフティネットが揺らいでいるのが実情である。「生存に必要な食料を必要な時に安定的に入手できる権利」である食料安全保障を掲げるアフリカの各国政府や国際機関は、農村の食料生産力を高めるため、大規模な農地開発や、グローバル企業が開発したトウモロコシやコムギの高収量品種の導入等を推進している。しかしながらこのような農業開発は各地で地元の人々と軋轢を生んできた。

欧米の技術・制度の導入を基本とするこのような政府主導の農業開発が進む中で注目されるようになってきているのが「食料主権」(Food Sovereignty) という概念である。これは「食料生産や消費の主権を生産者や生産地のコミュニティが取り戻すべきである」という主張で、当事者である農民の立場に立ち、短期的な増産ではなく、環境と調和をはかりながら農業生産や消費を持続的に発展させていくことをめざす。

近年アフリカの農業研究の進展により、例えば前近代的で環境破壊的な農法と見なされてきた焼畑が、必ずしも土地収奪的なものではなく、環境と調和して行われてきたことが明らかにされている。このようにアフリカにおける農法の再評価は進みつつある。他方、消費をめぐる、主食となる作物が地域の歴史や文化と関わっており、経済効率によってのみ検討できるものではないことは指摘されているものの(平野 2013)、アフリカ農民が培ってきた食にかかわる文化の再評価は農業研究ほど十分進んでいない。

そこで本研究では次の二つの問いについて検討を試みる。(a) アフリカの農民は、作物の選択や消費の場面において、どのような判断基準や在来知に基づいて主体的な選択を行っているのか？(b) アフリカ農民が有する食の文化は、食料主権概念の深化と調和のとれた農業開発にどのように寄与しうるのか？

2. 研究の目的

本研究は、アフリカの複数の農村を対象としたフィールドワークと文献調査を基に、農民が作物の選択や消費の場面で日々行う日々の主体的選択の事例を収集し、その選択を支える判断基準や在来知を明らかにする。その分析を通じて、食料主権に関する議論を深化させ、調和のとれた農業開発の実施に貢献することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

食文化は、食材の調理など技術的要素から、儀礼など社会的要素まで多様な要素で構成される。アフリカの食事は主食と副食で構成されるが、本研究は生活文化に最も密着した主食を中心に分析する。アフリカの主食となる食材は多様で、歴史的にも変化してきたが、その詳細に関する報告は多くない。そこで本研究は、アフリカの複数の地域・社会において、主食となる食材と調理法を詳細に把握し、比較可能な方法で記述する。その際、静態的システムとしてとらえる従来の研究の限界を克服するため、歴史的変化についても聞き取りと文献資料により把握を試みる。原則として植民地化以降を対象とし、アフリカの食の変化の重要な舞台となってきた都市にも注意を払う。

アフリカ各地でメンバーが現地調査を行う際、地域の環境利用とのかかわりに注意し、人々が食についてどのような在来知を持ちながら、日々の食材や調理の選択・決定を行っているのかについてデータを収集する。メンバーによる研究会の場で分析を報告し、その共通性や差異について議論する。これによりアフリカ各地の食文化の特色を明らかにするとともに、人々の日々の食に関する選択・決定の具体的な過程を解明する。

研究体制は以下である(表 1)。後述するように、研究協力者の大半は本科研の途中より参加したメンバーである。

表 1 本科研の研究体制

役割	メンバー(所属)	担当(研究協力者については研究テーマ)
研究者	藤本 武(富山大学学術研究部人文科学系)	北東アフリカにおける現地調査および全体統括
研究分担者	石川博樹(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所) 石山 俊(国立民族学博物館学術資源研究開発センター) 小松かおり(北海学園大学人文学部)	アフリカ全般における史的調査 北アフリカにおける現地調査(乾燥地農耕担当) 西アフリカにおける現地調査(焼畑農耕担当)

	佐藤靖明（長崎大学多文化社会学部）	東アフリカにおける現地調査（バナナ栽培担当）
	藤岡悠一郎（九州大学大学院比較社会文化研究院）	南部アフリカにおける現地調査（半乾燥地農耕担当）
研究協力者	浅田静香（京都大学アフリカ地域研究資料センター）	東アフリカの代替調理燃料と食文化に関する研究
	安溪貴子（生物文化多様性研究所）	アフリカのキャッサバ加工技術の伝播に関する研究
	池上甲一（近畿大学農学部）	アフリカの食料問題および食料主権に関する研究
	池邊智基（日本学術振興会特別研究員）	セネガル都市部における食文化の研究
	石本雄大（弘前大学農学生命科学部）	アフリカ半乾燥帯における栄養摂取に関する研究
	上村知春（日本学術振興会特別研究員）	エチオピア北部の食事文化に関する研究
	桐越仁美（国土館大学文学部）	ガーナ北部における食と農業に関する研究
	佐川 徹（慶應義塾大学文学部）	ガーナ南部における食と健康イメージに関する研究
	塩谷暁代（京都大学アフリカ地域研究資料センター）	カメルーンの都市と農村の食の動態の研究
	四方 篤（京都大学アフリカ地域研究資料センター）	カメルーンの都市と農村の食事の比較分析
	清水貴夫（京都精華大学国際文化学部）	ブルキナファソにおける都市の食文化の研究
	鈴木英明（国立民族学博物館グローバル現象研究部）	東アフリカの米食の歴史的展開に関する研究
	下山 花（日本学術振興会特別研究員）	エチオピア南部の食事文化に関する研究
	砂野 唯（新潟大学人文社会科学系創生学部）	東アフリカの酒をめぐる飲食文化の研究
	飛田八千代（筑波大学大学院理工情報生命学術院）	セネガル都市部における食料消費分析
	原子壮太（日本アフリカ学会）	東アフリカの米食の多様性に関する研究
	彭 宇潔（静岡大学人文社会科学部）	カメルーンの狩猟採集民の食文化の研究
	村橋 勲（静岡県立大学国際関係学部）	ウガンダの難民キャンプにおける食の分析
	八塚春名（津田塾大学学芸学部）	タンザニアの狩猟採集民の食文化の研究

4. 研究成果

2018（平成 30）年度より開始した本研究は、現地調査を行い、その成果に基づいて成果発表を行う予定であった。しかしながら現地調査をもっとも集中的に行う予定であった 2020（令和 2）年度から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行という事態に遭遇し、予算の繰り越しを行ったものの、結果的に当初計画を大きく見直さざるを得ない状況となった。

具体的には、2020 年度以降の現地調査実施が困難となったため、それまでの調査で得ていたデータの整理・分析を進めるとともに、1）それまでの調査で得たデータに基づいて論文発表や口頭発表を積極的に行うこととした。それに際しては、当初の研究代表者・研究分担者にメンバーを限定せず、研究協力者として若手を中心とした多くの研究者に参加・発表してもらうこととした。また、2）また本科研当初より対面で行っていた研究会をオンライン形式に変更して継続し、研究発表や意見交換などを引き続き活発に行った。

1）和文および英文での特集号での成果発表

2019（令和元）年 12 月に「アフリカ食文化の深淵に迫る」と題した公開シンポジウムを京都精華大学と共同で開催し、多数の参加者を得て好評であった。その後、そこで話に出た『農耕の技術と文化』誌で特集号を組むこととなった。しかし、その企画について詳細を議論することが 2020 年春に予定していた研究会がコロナ禍で開催できず、同年夏にようやく話し合う機会を得た。そこで、本科研の代表者・分担者らに特に限定せず、広く声をかけて特集号を組むことが了承された。そして一年あまりたった 2021 年から 2022 年にかけて『農耕の技術と文化』誌 30 号および 31 号の 2 号にわたり、特集「アフリカ食文化研究の新展開」を組み、論文 10 本、研究ノート 3 本を掲載することができた。アフリカの食文化についてこのようにまとめた形で日本語の論者が発表されたことは初めてのことであり、画期的であったと言えるはずである。

本科研では計画当初より、最終成果として African Study Monographs, Supplementary Issue を発行することが掲げられていたが、こちらについても当初計画では本科研で実施した現地調査の成果を研究代表者および研究分担者が報告することが想定されていた。しかしこちらについても、前年度に発行した『農耕の技術と文化』誌の特集号同様、関心のある研究者に広く門戸を開き、執筆してもらうよう方針を転換した。その結果、2022（令和 4）年度末に Progress in African Food Culture Research と題した African Study Monographs, Supplementary Issue Vol. 61 を発行し、7 本の論文を掲載することができた。これもアフリカの食文化研究において

重要な成果といえるはずである。

2) アフリカ食文化研究会の開催

2018(平成30)年度より2022(令和4)年度にかけて、アフリカ食文化研究会という名称で研究会を年2~3回ずつ、現在まで計12回にわたって開催してきた。コロナ禍以前の2018~2019年度には東京や大阪で対面で開催してきたが、コロナ禍に見舞われた2020年度よりZOOM等を用いて遠隔方式での開催に変更した(ただし2022年度の最終回はハイブリッド方式で行った)。毎回3~5時間程度の長時間にわたって開催し、じっくり時間をかけて議論を行うことを重視してきた。参加者も最初の2年間はほとんど代表者および分担者のみであったが、初めて遠隔で開催した2020年度8月の第6回研究会での話し合いの結果、研究会を科研メンバー(代表者・分担者)に限定することなく、よりオープンに行っていく方針に転換し、2022年度末に開催した第12回には参加者が20名をこえるまで成長しつつある。

またこの研究会を通じて形成されたネットワークがベースとなり、2023年度からは東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の共同利用・共同研究課題「アフリカ食文化研究 変貌しつつあるその実像に迫る」が20名のメンバーでスタートしている。今後アフリカの食文化研究において主導的役割を果たしていく基盤が本科研の研究会を通じて築かれたと言えるはずである。

3) 主要メンバーの研究成果

研究代表者の藤本武はこれまで長く人類学的調査を行っているエチオピア西南部の農耕民マロの人びとのパンについて検討を行った。乾燥酵母を使用した西洋的なパンが近年普及しつつあるものの、丸く平たい円盤型の土器(焙烙)で焼くもの(フラットブレッド(図



図1 マロのフラットブレッド boora



図2 マロの蒸しパン d'ufe

1)、サワーブレッド)と壺型の土器で蒸すもの(蒸しパン)(図2)など従来のパンが現在も複数存在しており、それぞれの特徴を検討するとともに、従来の研究では見逃されてきた、乳酸発酵の酸味を伴う食品を人びとが強く好んでいる点に着目しながら検討を行った。

またエチオピアやエリトリア等ごく限られた地域で栽培される世界的にはマイナーな穀物であるテフ(*Eragrostis tef*)は他の穀物より収量が低いにもかかわらず、それらの国々では広く栽培され、今日も栽培が拡大しつつある。マロではテフの栽培は以前からあったものの、50年ほど前よりインジェラという今日エチオピアで広く知られる発酵させたパンケーキが食べられるようになってからテフ栽培が急速に増えてきた。マロの人びとは半世紀前にインジェラを食べるようになる前もインジェラは知っていたにもかかわらず、食べていなかった。半世紀前に食べ始めた当初も、特別な機会に食べるくらいであったが、今日は日常のちょっとした贅沢で食べられるようになってきている(図3)。このようにインジェラと人びとの関係は大きく変化してきたが、そこには人びとのエチオピアという国家に関するアイデンティティの変化が関係していると考えられることを検討した。



図3 インジェラの共食

イネ科の穀類テフの粉などからつくられる酸味のあるパンケーキ状のインジェラはしばしばエチオピアを代表する食品と称される。インジェラはエチオピア北部発祥の食品であるが、この地においてテフが主食穀類となった時期、またインジェラが成立した時期はこれまで解明されていなかった。研究分担者の石川博樹は、古代から19世紀半ばまでの各種文字記録の検討を行い、エチオピア北部において1520年代から17世紀初頭までの間に民衆の間でテフの消費が拡大し、1750年代前半までにテフが主食穀類になったこと、その後1770年代初頭までにインジェラのプロトタイプとなる食品が成立していたことなどを明らかにし、日本語・英語の論考として公表した。エチオピアにおいて重要な食品であるインジェラの成立と普及の歴史を解明するにあたっては、副食の変化に関する研究が欠かせない。今後は重要な副食である豆類の煮込み料理の歴史的变化について研究を進める。

研究分担者の石山俊は2019年から2020年にかけて実施した、アルジェリア、サハラ・オアシス調査結果をまとめ、本研究開始前から蓄積させてきたデータを統合することによって、論文の執筆をおこなった。これによって、サハラ・オアシスの食文化の基盤となる、ナツメヤシ灌漑農



図4 サハラ北東部での窪地利用のナツメヤシ灌漑農業（左）

図5 スプリンクラー灌漑によるジャガイモの商業栽培（右）

業(図4)とその現代的動態を類型化し、整理することができた。しかし、コロナ禍によって、継続的な現地調査を実施することができず、本研究の主題のひとつであるサハラ・オアシスの食文化とその変容に関するデータを十分に収集することができなかつた。今後の調査においてこれらのデータを集積させ、本研究において蓄積した知見を発展させ、論文等の成果公表をすすめていく。

研究分担者の小松かおりは、バナナを主食作物とする食文化を対象に、これまでの現地調査のデータから、カメルーンとウガンダ、また、東南アジアとパプアニューギニアを比較し、主食作物の選択が、自然環境や社会環境によるだけでなく、調理法や贈与財としての社会的価値などに影響されていることについて検討し、主食作物が変化するときの農耕文化と食文化の組み換えについて論じた。

研究分担者の佐藤靖明はウガンダ、アフリカ、世界のバナナ栽培・利用状況、とそれらの関する研究について、動向を把握してまとめた。また、ウガンダで開発中の遺伝子組み換えバナナについて、もし社会に広まった場合の栽培農家の対応について考察するとともに、その課題について論じた。

研究分担者の藤岡悠一郎は、フィールドワークによって取得した食事調査データを、料理のセットに分類して分析する新たな手法を検討した。また、既存のデータベースや文献、調査記録等から、アフリカの食事調査データを網羅的に収集する手法を検討した(2020年度)。2021年度は、日本アフリカ学会第58回学術大会の企画セッションにおいて、ナミビア北部で実施した食事調査データを二元指標種分析とクラスター分析によって分析した結果を発表した。また2022年度には、ナミビア北部で実施した食事調査データを二元指標種分析とクラスター分析によって分析した結果を論文として公表した(図6)。今後もナミビア北部の農牧社会を対象にした食文化の変容に関する研究を継続し、本科研の成果として発表した論文に記載した食事調査データの分析手法を別のデータセットに適用し、食事セットの新たな分類を試みる。

研究協力者の安溪貴子は、民族生態学の立場から1)アフリカ熱帯雨林で地域自給の生活を営むバンツー系ソングーラ人の食と農についての民族誌データを比較検討し、その民族分類の体系を抽出し、料理の多様性を支える技術を明らかにし、2)とくにキャッサバの毒抜き法について、アフリカ大陸全体を視野に入れて、南米から伝播したキャッサバとその毒抜きの技術が、アフリカ各地で独自の多様な展開を見せたことを、歴史資料を毒抜きの原理に照らして批判的に検証することで、アフリカの食と農の一側面の全体像を描いた(図7)。

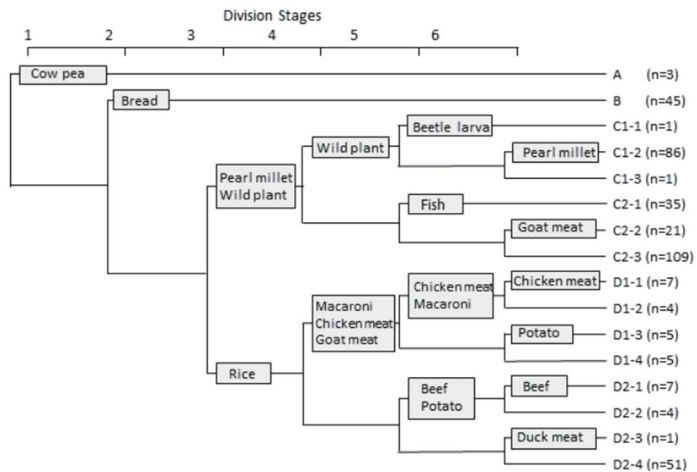


図6 TWINSpanを用いた指標食物のグループ化

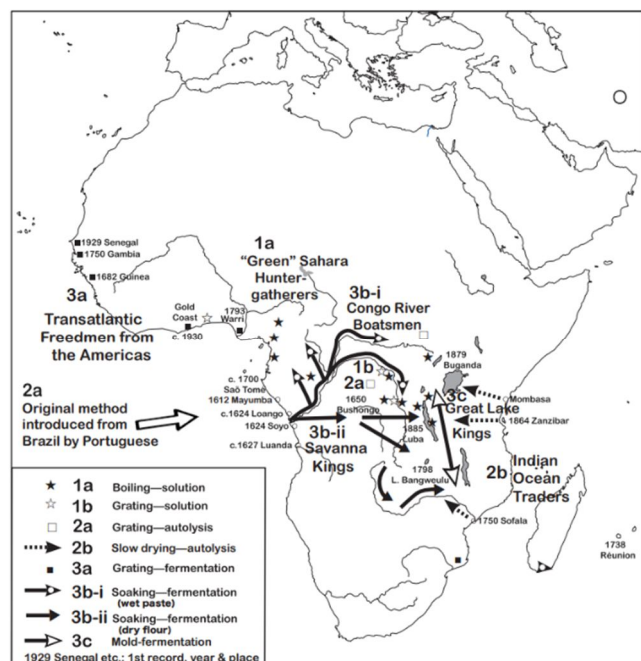


図7 アフリカにおけるキャッサバ解毒技術の普及経路

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計45件（うち査読付論文 33件／うち国際共著 3件／うちオープンアクセス 28件）

1. 著者名 Takeshi Fujimoto, Yuichiro Fujioka & Yasuaki Sato	4. 巻 61
2. 論文標題 Introduction to the Supplementary Issue “Progress in African Food Culture Research”	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 African Study Monographs, Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hiroki Ishikawa	4. 巻 61
2. 論文標題 Increase in Teff Consumption in Northern Ethiopia between the 16th and 18th Centuries and the Birth of Injera	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 African Study Monographs, Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 7-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Takeshi Fujimoto	4. 巻 61
2. 論文標題 Cultivating in the Indigenous Way, Eating in the National Way: Changing Food and Identity among the Malo, Southwestern Ethiopia	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 African Study Monographs, Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 41-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Sota Harako	4. 巻 61
2. 論文標題 Subsistence Rice Cultivation and the Formation of a Diverse Rice-Eating Culture in the Rural Villages of Shifting Cultivators in Southern Tanzania	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 African Study Monographs, Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 65-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Takako Ankei	4. 巻 61
2. 論文標題 Diffusion of Cassava Detoxification in Africa: A Reconsideration of its Biocultural History	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 African Study Monographs, Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 93-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiyo Shioya	4. 巻 61
2. 論文標題 Cassava Commercialization and Reactions in Producing Areas: A Case Study in Rural Eastern Cameroon	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 African Study Monographs, Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 139-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shizuka Asada	4. 巻 61
2. 論文標題 The Production and Adaptability of Carbonized Briquettes from Banana Peels in the Banana-Staple Society in Kampala, Uganda	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 African Study Monographs, Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 165-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuichiro Fujioka	4. 巻 61
2. 論文標題 Classification of Daily Food Sets in an Agro-Pastoral Society in North-Central Namibia: A Comparison of Cluster Analysis and Two-Way Indicator Species Analysis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 African Study Monographs, Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 187-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鶴田格・小松かおり	4. 巻 101
2. 論文標題 序論：アフリカにおける農業イノベーションの諸特徴	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 佐藤靖明	4. 巻 101
2. 論文標題 ウガンダにおける遺伝子組み換えバナナと農民の受容 品種多様性との関係から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 35-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤岡悠一郎	4. 巻 101
2. 論文標題 ナミビア北中部農牧社会における新農法導入にともなう在来知と農業実践の変化 SATREPS プロジェクトを事例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤岡悠一郎・藤田知弘・手代木功基	4. 巻 100
2. 論文標題 アフリカの社会生態系をめぐる課題と展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 35-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石川 博樹	4. 巻 30
2. 論文標題 16～18世紀のエチオピア北部におけるテフの消費拡大とインジェラの成立	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_30_001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 下山 花	4. 巻 30
2. 論文標題 エンセーテ農業と種子農業の共存する地域の食事文化 エチオピア南西部ガモ高地の主要作物の加工調理と食事行動に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 37-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_30_037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本 武	4. 巻 30
2. 論文標題 エチオピアの農耕民マロのパンをめぐる民族誌 在来のパンについて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 65-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_30_065	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原子 壮太	4. 巻 30
2. 論文標題 東アフリカ焼畑農耕民の稲作と米食文化 タンザニア南部の僻村の事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 89-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_30_089	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八塚 春名	4. 巻 30
2. 論文標題 タンザニアの狩猟採集民ハッザによる食料獲得戦略の多様化 民族観光と他民族の影響に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 113-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_30_113	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村橋 勲	4. 巻 30
2. 論文標題 ウガンダの難民居住地における南スーダン人の食習慣 食材と嗜好の変化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 133-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_30_133	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅田 静香	4. 巻 30
2. 論文標題 ウガンダ・カンバラにおける食文化の維持と新しい調理用燃料の導入 料理用バナナの調理方法に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 159-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_30_159	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水 貴夫	4. 巻 30
2. 論文標題 ブルキナファソの「食のランドシャフト」を考える 新たな食文化研究への一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 179-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_30_179	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石本 雄大・宮崎英寿・梅津 千恵子	4. 巻 30
2. 論文標題 ザンビア南部における小規模農家による栄養摂取の季節変動と改善策の検討 食品摂取多様性スコアを用いて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 201-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_30_201	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池上 甲一	4. 巻 30
2. 論文標題 一国主義・技術主義の食料安全保障論から人々のための統合的食料安全保障論への転換	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 221-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_30_221	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安深 貴子	4. 巻 31
2. 論文標題 コンゴ民主共和国ソンゴラ人の料理 域内自給による食の多様性と持続可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 47-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_31_047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 砂野 唯	4. 巻 31
2. 論文標題 酒を食事とする人びとの食嗜好の形成 エチオピア南部を事例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 73-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_31_073	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石山 俊	4. 巻 31
2. 論文標題 サハラ・オアシス灌漑農業の現代的様態 アルジェリアの事例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 農耕の技術と文化	6. 最初と最後の頁 93-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/nobunken_31_093	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤靖明・池谷和信	4. 巻 34
2. 論文標題 人類とバナナ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biostory	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤靖明	4. 巻 34
2. 論文標題 バナナと文化 食をめぐる関係の諸相	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biostory	6. 最初と最後の頁 22-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤靖明・池谷和信	4. 巻 34
2. 論文標題 バナナから見た地球 「3つの波」の人類誌	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Biostory	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本武	4. 巻 89(9)
2. 論文標題 主食となる発酵食 - 高い人口密度を支えるエチオピアの巨大イモをめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 807-810
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石山俊	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 サハラ・オアシスにおける灌漑水供給システムとナツメヤシ栽培	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沙漠研究	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14976/jals.29.1_21	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinori Watanabe, Fisseha Itanna, Yasuhiro Izumi, Simon K. Awala, Yuichiro Fujioka, Kenta Tsuchiya, Morio Iijima	4. 巻 33(3)
2. 論文標題 Cattle manure and intercropping effects on soil properties and growth and yield of pearl millet and cowpea in Namibia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Crop Improvement	6. 最初と最後の頁 395-409
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15427528.2019.1604456	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 藤岡悠一郎	4. 巻 491
2. 論文標題 暮らしの中の熱帯その13 マルーラの商品化は住民の生活を変えたか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グリーン・パワー	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤岡悠一郎・大石侑香・田中利和・ナチェージュダ ヴィノクロヴァ	4. 巻 29
2. 論文標題 サハ共和国・ゴルヌィ郡におけるサハの野生ベリー類採集	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道立北方民族博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 31-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 安溪遊地・安溪貴子	4. 巻 64-65
2. 論文標題 國分直一先生の足跡を追って(2) 残された野帳にみる228事件との遭遇	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 榕樹文化	6. 最初と最後の頁 23-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安溪遊地・安溪貴子	4. 巻 66
2. 論文標題 國分直一先生の足跡を追って(3) 台湾大学図書館の國分文庫と回覧雑誌のことなど	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 榕樹文化	6. 最初と最後の頁 23-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安溪遊地・安溪貴子	4. 巻 558
2. 論文標題 つばめ農園おひさま便り(1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊むすぶ	6. 最初と最後の頁 52-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安溪遊地・安溪貴子	4. 巻 559
2. 論文標題 つばめ農園おひさま便り(2)田畑の準備、阿東つばめ農園・おひさま発電所	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊むすぶ	6. 最初と最後の頁 52-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安溪遊地・安溪貴子	4. 巻 560
2. 論文標題 つばめ農園おひさま便り(3)沈黙の春・ポストハーベスト農薬汚染	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊むすぶ	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本武	4. 巻 53
2. 論文標題 テフとインジェラ エチオピアにおける食と農の展開に関する事例分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 農業史研究	6. 最初と最後の頁 27～38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本武	4. 巻 90
2. 論文標題 エチオピアにおける有毒イモ利用の諸相 テンナンショウ類を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 とやま民俗	6. 最初と最後の頁 1～8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石山俊	4. 巻 7
2. 論文標題 石油経済下50年間のサウジアラビア農業動態	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 AFRO-EURASIAN Inner Dry Land Civilizations アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明	6. 最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuichiro Fujioka(藤岡悠一郎), Yoshinori Watanabe, Hiroki Mizuochi, Fisseha Itanna, Shou Ruben, Morio Iijima	4. 巻 38(5)
2. 論文標題 Classification of Small Seasonal Ponds Based on Soil-Water Environments in the Cuvelai Seasonal Wetland System, North-Central Namibia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 WETLANDS	6. 最初と最後の頁 1045-1057
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13157-018-1073-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yasuaki Sato(佐藤靖明), Kaori Komatsu(小松かおり), Koichi Kitanishi, Kagari Shikata-Yasuoka, and Shingo Odani	4. 巻 62(3)
2. 論文標題 Banana Farming, Cultivars, Uses, and Marketing of Nkore in Southwestern Uganda	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tropical Agriculture and Development	6. 最初と最後の頁 141-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11248/jsta.62.141	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川博樹	4. 巻 38(4)
2. 論文標題 古地図が物語るアフリカ史	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地図情報	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安溪遊地・安溪貴子	4. 巻 63
2. 論文標題 國分直一先生の足跡を追って(1) 高雄の幼年時代の家	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 榕樹文化	6. 最初と最後の頁 21 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計49件(うち招待講演 9件/うち国際学会 12件)

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 16～18世紀エチオピア北部におけるテフの重要性の変化について
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会第30回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 エチオピア北部におけるインジェラの成立に関する歴史学研究
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所海外学術フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 16～19世紀エチオピア北部における副食
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会第31回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 石川博樹
2. 発表標題 エチオピアの栽培植物に関する歴史研究を通して見た学際的共同研究の可能性
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所海外学術フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤岡悠一郎
2. 発表標題 変容するアフリカの昆虫食文化：ナミビア農牧社会の事例
3. 学会等名 第65回日本応用動物昆虫学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takeshi Fujimoto
2. 発表標題 Sharing Agricultural Horses: Memories of a Particular Human-Animal Relationship in Rural Japan
3. 学会等名 East Asian Anthropological Association Annual Meeting 2022（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本 武
2. 発表標題 アフリカにおける農業遺産の可能性：エチオピア西南部のエンセーテ栽培
3. 学会等名 第30回日本ナイル・エチオピア学会学術大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安深 貴子
2. 発表標題 塩を買うだけで2100種類の料理をつくる コンゴ民主共和国・ソンゴラ人の食の多様性による持続可能性
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会（フォーラム：アフリカ食文化の多様性）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石本 雄大・宮崎 英寿・梅津 千恵子
2. 発表標題 ザンビア南部における小規模農家による栄養摂取の検討 食品摂取多様性スコアを用いて
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会（フォーラム：アフリカ食文化の多様性）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原子 壮太
2. 発表標題 東アフリカにおける米食文化の伝播と受容に関する予備的考察 タンザニア南部の僻村の事例から
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会（フォーラム：アフリカ食文化の多様性）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 下山 花
2. 発表標題 種子作物の多様な調理方法とその形成 エチオピア南西部のオオムギと コムギの事例
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会（フォーラム：アフリカ食文化の多様性）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本 武
2. 発表標題 エチオピアの2つの在来パンをめぐる 民族誌的研究 農耕民マロの事例
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会（フォーラム：アフリカ食文化の動態）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塩谷 暁代
2. 発表標題 地域食文化からみるキャッサバ商品化の動態 カメルーン東南部におけるキャッサバ加工販売の事例から
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会（フォーラム：アフリカ食文化の動態）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村橋 勲
2. 発表標題 難民における食の動態と対処方法 ウガンダ中西部の南スーダン難民 の事例から
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会（フォーラム：アフリカ食文化の動態）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤岡 悠一郎
2. 発表標題 食文化の観点からみた農牧複合とその動態 ナミビア農牧社会の食事セット分析
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会（フォーラム：アフリカ食文化の動態）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 砂野 唯
2. 発表標題 栄養源とされる酒の地域ごとの飲み方 エチオピア・ネパール・インドネシア・日本を事例として
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川 博樹
2. 発表標題 エチオピア関連ポルトガル語史料における作物名称Milhoと Graoに関する考察
3. 学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石川 博樹
2. 発表標題 経済活動から見た北部エチオピアの2王国の比較研究
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuichiro Fujioka
2. 発表標題 Commodification of Marula products in South Africa
3. 学会等名 Memorial Symposium for MOU between University of Florida and Kyoto University "Sustainable and Wise Use of Forest Plants in African and Asian Tropics", Kyoto University
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shun Ishiyama
2. 発表標題 Using scientific results to benefit local people by working together at In Belbel Oasis, Algeria: In accordance with the will of the late Professor Iwao Kobori, the Japanese human geographer
3. 学会等名 RAI2020: Anthropology and Geography: Dialogues Past, Present and Future, ROYAL ANTHROPOLOGICAL INSTITUTE (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本武
2. 発表標題 モロコシ栽培利用の多様性と変容 - エチオピア西南部の山地農耕民マロの事例 -
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本武
2. 発表標題 福野夜高祭(富山県南砺市)における脱暴力化:「引き合い」の変化の検討
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujimoto, Takeshi (藤本武)
2. 発表標題 Moral Economy of Sharecropping: The Case of Malo Farmers in Southwestern Ethiopia
3. 学会等名 IUAES 2019 Inter-Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujimoto, Takeshi (藤本武)
2. 発表標題 The Dynamics of a Fighting Festival: The Case of Fukuno Yotaka Matsuri in Toyama Prefecture, Japan
3. 学会等名 Annual Meeting of East Asian Anthropological Association 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 ワーディ・ファーティマにおける土地利用・農業の変容
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 地域研究写真のデジタル化・データベース化と研究への活用 - DiPLASプロジェクトの経験
3. 学会等名 シンポジウム『地域コミュニティのメディアテーク』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 土地利用と農業の変容：現地調査による景観変遷の復元
3. 学会等名 日本沙漠学会秋季シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 アフリカ内陸サハラ・サーヘル文化
3. 学会等名 国際シンポジウム『「一帯一路 One Belt, One Road」アフロ・ユーラシア文明論から考える』（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sato, Yasuaki（佐藤靖明）
2. 発表標題 Changing Dietary Habits of Children in Central Uganda: Whereabouts of Traditional Food Knowledge in Modernization
3. 学会等名 The 42nd Society of Ethnobiology Annual Meeting（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤靖明・池谷和信
2. 発表標題 バナナの文化誌の構想
3. 学会等名 生き物文化誌学会第77回例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤靖明
2. 発表標題 バナナ文化 - 食・酒・布 -
3. 学会等名 生き物文化誌学会第77回例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤岡悠一郎
2. 発表標題 ナミビア北中部における果樹の分布と農牧民の居住の歴史
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤岡悠一郎・手代木功基・飯田義彦・伊藤千尋・八塚春名
2. 発表標題 日本列島におけるトチノキ巨木林の分布と成立要因（予察）
3. 学会等名 日本地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯田義彦・手代木功基・藤岡悠一郎
2. 発表標題 石川県白山麓におけるトチノキ巨木の分布と生育地の景観タイプ
3. 学会等名 日本地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 手代木功基・藤岡悠一郎・飯田義彦
2. 発表標題 滋賀県高島市朽木の共有林に存在するトチノキ巨木林の立地環境
3. 学会等名 日本地理学会秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fujioka, Yuichiro (藤岡悠一郎)
2. 発表標題 Commodification of Marula products in South Africa
3. 学会等名 Memorial Symposium for MOU between University of Florida and Kyoto University "Sustainable and Wise Use of Forest Plants in African and Asian Tropics" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fujioka, Yuichiro (藤岡悠一郎)
2. 発表標題 Co-producing of New Knowledge
3. 学会等名 Arctic Circle (Session: Science meets Society) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安溪遊地・安溪貴子
2. 発表標題 Songola Heritage Database, D. R. Congo: A trial for sustainable biocultural diversity
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤本武
2. 発表標題 エチオピアの食と農 ユニークな作物とその発酵食を中心に
3. 学会等名 第27回日本ナイル・エチオピア学会学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本武
2. 発表標題 エチオピア西南部の山地農耕民マロにおけるヤムイモの栽培利用 ギニアヤムを中心に
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本武 (Takeshi Fujimoto)
2. 発表標題 Diversity, Cultivation and Utilization of Yams (<i>Dioscorea</i> spp.) among the Malo Mountain Farmers in Southwestern Ethiopia
3. 学会等名 16th Congress of International Society of Ethnobiology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本武 (Takeshi Fujimoto)
2. 発表標題 Why is Teff Uniquely Important in Ethiopia? A Consideration from a Southwestern Society
3. 学会等名 International Workshop on "Millets and Maize: Dynamics around Ethiopia's Competing Grains" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本武 (Takeshi Fujimoto)
2. 発表標題 People-Made Landscapes of Cropping, Managed Fertility, and Cosmology: The Case of Malo Farmers in Southwest Ethiopia
3. 学会等名 20th International Conference of Ethiopian Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石山俊, 宮崎英寿, 安田裕
2. 発表標題 ミャンマー中央乾燥地における生計向上と村落開発の研究
3. 学会等名 日本沙漠学会第29回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 サハラ・オアシスの文化：灌漑とナツメヤシ
3. 学会等名 2018年度日本沙漠学会乾燥地農学分科会講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石山俊
2. 発表標題 オアシス農耕の現在：食への農学的アプローチ
3. 学会等名 2018年度人間文化研究機構 現代中東地域研究 国立民族学博物館拠点・秋田大学拠点シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤岡悠一郎
2. 発表標題 南アフリカにおけるマルーラの商品化と資源利用
3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤靖明
2. 発表標題 東アフリカ大湖地方の食と農 ウガンダにおけるバナナの過去と現在
3. 学会等名 第27回日本ナイル・エチオピア学会学術大会公開シンポジウム「食と農が支えたナイル・エチオピア地域の歴史と文化」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuaki Sato(佐藤靖明), Kaori Komatsu(小松かおり), Shingo Odani, Kagari Shikata-Yasuoka, and Koichi Kitanishi
2. 発表標題 Comparative Study on the Banana-Farming Complex in Uganda and Papua New Guinea
3. 学会等名 16th Congress of the International Society of Ethnobiology (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 杉村和彦・鶴田格・末原達郎編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 466
3. 書名 アフリカから農を問い直す 自然社会の農学を求めて	

1. 著者名 小松かおり	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 277
3. 書名 バナナの足、世界を駆ける	

1. 著者名 吉澤誠一郎（監修）、石川博樹・太田淳・太田信宏・小笠原弘幸・宮宅潔・四日市康博（編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158	

1. 著者名 石山俊(分担執筆) 西尾哲夫・東長靖 編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 中東イスラーム世界への30の扉	

1. 著者名 石山俊(分担執筆) 野林厚志ほか編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 716
3. 書名 世界の食文化百科事典	

1. 著者名 古川柳蔵・生田博子・藤岡悠一郎・庄子 元 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑波書房	5. 総ページ数 151
3. 書名 在来知と社会的レジリエンスーサステナビリティに活かす温故知新	

1. 著者名 遠藤 貢・阪本 拓人・藤岡悠一郎他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 274
3. 書名 ようこそアフリカ世界へ	

1. 著者名 吉田圭一郎、上杉和央、香川雄一、宮岡邦任、横山智、近藤章夫、宮本真二、山尾大、飯嶋曜子、藤岡悠一郎他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 実教出版	5. 総ページ数 244
3. 書名 地理総合	

1. 著者名 横山智編著（藤本武：序章、第一章、終章分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 農山漁村文化協会	5. 総ページ数 235
3. 書名 世界の発酵食をフィールドワークする	

1. 著者名 Goran Hyden, Kazuhiko Sugimura, Tadasu Tsuruta, Yuichiro Fujioka他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 198
3. 書名 Rethinking African Agriculture: How Non-Agrarian Factors Shape Peasant Livelihoods	

1. 著者名 石山俊(分担執筆、編集委員) 日本沙漠学会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 534
3. 書名 沙漠学事典	

1. 著者名 石山俊・縄田浩志	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 181
3. 書名 サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年 - 「見られる私」より「見る私」担当箇所：「ナツメヤシを育てる - オアシスの農業」 pp.124-125	

1. 著者名 縄田浩志・石山俊	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 181
3. 書名 サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年 - 「見られる私」より「見る私」担当箇所：「ナツメヤシからつくる - 多様な利用法」 pp.126-127	

1. 著者名 田畑伸一郎・後藤正憲・藤岡悠一郎ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 306
3. 書名 北極の人間と社会 - 持続的発展の可能性	

1. 著者名 安深貴子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 479
3. 書名 日本ネシア論（別冊『環』25）「文化としてのソテツ食」pp.90-92執筆	

1. 著者名 關野伸之・飯塚明子・真貝理香・村山修二郎・渡邊芳倫・大谷通高・高木佳子・岡本侑樹・寺田匡宏・砂野唯・庄子元・関根良平・風戸真理・石山俊・大門碧・大平和希子・山根裕子・藤本麻里子・福田聖子・中尾淳・遠藤聡子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 総合地球環境学研究所	5. 総ページ数 130
3. 書名 フィールドで出会う風と人と土4（田中樹、宮崎英寿、石本雄大編）	

1. 著者名 水野一晴・藤岡悠一郎・青木繁・飯田義彦・伊藤千尋・鎌谷かおる・木村道德・熊澤輝一・嶋田奈穂子・手代木功基・中村治・八塚春名・山科千里	4. 発行年 2019年
2. 出版社 海青社	5. 総ページ数 318
3. 書名 朽木谷の自然と社会の変容（水野一晴・藤岡悠一郎編）	

1. 著者名 佐藤宏明・藤岡悠一郎・足達太郎・岩田大生・坂本洋典・東城幸治・立田晴記・奥田隆・高須啓志・小路晋作・相内大吾・皆川昇・二見恭子・サンデー・エケシ・マヌエレ・タモ・前野ウルド浩太郎・八木繁実・岸田袈裟	4. 発行年 2019年
2. 出版社 海游舎	5. 総ページ数 320
3. 書名 アフリカ昆虫学 生物多様性とエスノサイエンス（田付貞洋・佐藤宏明・足達太郎編）	

1. 著者名 安深貴子・安溪遊地・大野正博・溝手朝子・Efrain Villamor Herrero	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南方新社	5. 総ページ数 247
3. 書名 地中海食と和食の出会い バスク人サビエルと大内氏の遺産を生かして (溝手朝子・Efrain Villamor Herrero編)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石山 俊 (Ishiyama Shun) (10508865)	国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・プロジェクト研究員 (64401)	
研究分担者	藤岡 悠一郎 (Fujioka Yuichiro) (10756159)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	小松 かおり (Komatsu Kaori) (30334949)	北海学園大学・人文学部・教授 (30107)	
研究分担者	佐藤 靖明 (Sato Yasuaki) (30533616)	大阪産業大学・デザイン工学部・准教授 (34407)	
研究分担者	石川 博樹 (Ishikawa Hiroki) (40552378)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	浅田 静香 (Asada Shizuka)	京都大学・アフリカ地域研究資料センター (14301)	
研究協力者	安溪 貴子 (Ankei Takako)	生物文化多様性研究所	
研究協力者	池上 甲一 (Ikegami Koichi)	近畿大学・農学部	
研究協力者	池邊 智基 (Ikebe Tomoki)	日本学術振興会・特別研究員	
研究協力者	石本 雄大 (Ishimoto Yudai)	弘前大学・農学生命科学部	
研究協力者	上村 知春 (Kamimura Chiharu)	日本学術振興会・特別研究員	
研究協力者	桐越 仁美 (Kirikoshi Hitomi)	国士舘大学・文学部	
研究協力者	佐川 徹 (Sagawa Toru)	慶應義塾大学・文学部	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	塩谷 暁代 (Shioya Akiyo)	京都大学・アフリカ地域研究資料センター	
研究協力者	四方 篝 (Shikata Kagari)	京都大学・アフリカ地域研究資料センター	
研究協力者	清水 貴夫 (Shimizu Takao)	京都精華大学・国際文化学部	
研究協力者	鈴木 英明 (Suzuki Hideaki)	国立民族学博物館・グローバル現象研究部	
研究協力者	下山 花 (Shimoyama Hana)	日本学術振興会・特別研究員	
研究協力者	砂野 唯 (Sunano Yui)	新潟大学・人文社会科学系創生学部	
研究協力者	飛田 八千代 (Tobita Yachiyo)	筑波大学・理工情報生命学術院	
研究協力者	原子 壮太 (Harako Sota)	日本アフリカ学会	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	彭 宇潔 (Peng Yujie)	静岡大学・人文社会科学部	
研究協力者	村橋 勲 (Murahashi Isao)	静岡県立大学・国際関係学部	
研究協力者	八塚 春名 (Yatsuka Haruna)	津田塾大学・学芸学部	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関